

投資家としての成長記録

第1回：投資を始めるまで

これは、ごく普通のサラリーマンだった私が、投資の世界に足を踏み入れるまでの物語です。
これから投資を始めようと思っている方の、参考になれば嬉しい限りです。



「上を目指してずっとこの会社で働く」
…はずだった。

2002年、春。私はごく普通のサラ
リーマン。職種は営業。

成績は、特に悪いわけでもなく、
良くもなかった。

いつからか、先輩たちを見て将来
の自分の年収を計算するようにな
っていた。



サラリーマンとして見えた 「年収1,000万円の壁」

このままの成績なら、将来の月収は
これくらい。年収は…。

当時の会社員では、年収1,000万
円が大きな壁だ感じていた。

なぜか、1,000万円が十分だとは思
えなかった。



年収1,000万円の壁

私の心を掴んだのは、「億」という響きだった。

億

1,000万円では満足できない。心のどこかで「億」という響きに憧れていた記憶がある。

この気持ちがあったからこそ、常に何か他に稼げることはないかと探し続けていた。

答えを求め、異業種の人々が集まる場所へ。

営業という職種を活かし、頻繁に異業種の交流会に参加した。

出会う人は年上ばかり。自分の営業成績よりも

「何か稼げること」について聞き回っていた。

続けていると、本当に稼いでいる人が服装や話し方、姿勢で分かるようになってきた。



成功者たちに共通していた、一つの答え。

多くのお金持ちは、皆、投資をしていた。

当時はデイトレブームの始まりの頃。ネット証券も増え、投資を始める人が徐々に増えていた。

しかし、実際に手を出す人はまだ少なかった。私もその一人だった。



しかし、私の前には「投資」に対する巨大な先入観の壁が立ちはだかった。



怖い:

大金が関わることへの本能的な恐怖。



借金：

失敗すれば借金を背負うというイメージ。



お金持ちがやるもの:

自分にはまったく関係のない世界。



頭がいい人がやること:

専門知識がないと勝てない。

怖い借金
お金持ちがやるもの
借金
お金持ちがやるもの
借金
お金持ちがやるもの
頭がいい人がやること
頭がいい人がやること
お金持ちがやるもの
お金持ちがやるもの
怖い
お金持ちがやるもの
頭がいい人がやること

「投資はお金持ちがやるものだ」と思っていた。

それでも興味が 消えなかった理由。

なぜなら、そこには「億」を稼げる
可能性があったからだ。

多くの先輩から情報を貰ったが、
半信半疑だった。

「そう簡単に稼げる話があるか」
「プロに敵うわけない」と。

それでも、可能性に賭けてみたかった。



「自分が納得しなければ
行動できない」性格が、
私を本屋へ向かわせた。

- 仕事中でもひたすら本屋へ行き、投資関係の書籍を立ち読みした。
- 幸い営業職だったので、会社を出れば何をしていても気にされない。
- 最低限の営業成績だけは残し、余った時間はすべて投資の勉強に費やした。



3ヶ月間、週末以外ほぼ毎日。知識という武器を求め続けた。

		1	2	3	4	5			1	2	3	4	5			1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12	6	7	8	9	10	11	12	6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19	13	14	15	16	17	18	19	13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26	20	21	22	23	24	25	26	20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30				27	28	29					27	28	29	30	31		

何冊か本を購入し、家でも勉強を続けた。

当時はとにかく無知で、失敗したくない気持ちでいっぱいだった。

実際に取引しなければ成果はない。そんな当たり前のことも知る由もなかった。

「私のように、投資の勉強をしに本屋に来ているスーツの営業マンを、今でも覚えています。」

そして、いよいよ口座開設へ。

当時は「新規口座開設後1か月間は取引手数料無料」が流行っていた。このサービスが行動を後押ししてくれたかもしれない。

一気に5社くらい連続で申し込んだ覚えがある。

ネットで情報を入力して、ボタンを押すだけ。それでも、大きな一歩だった。

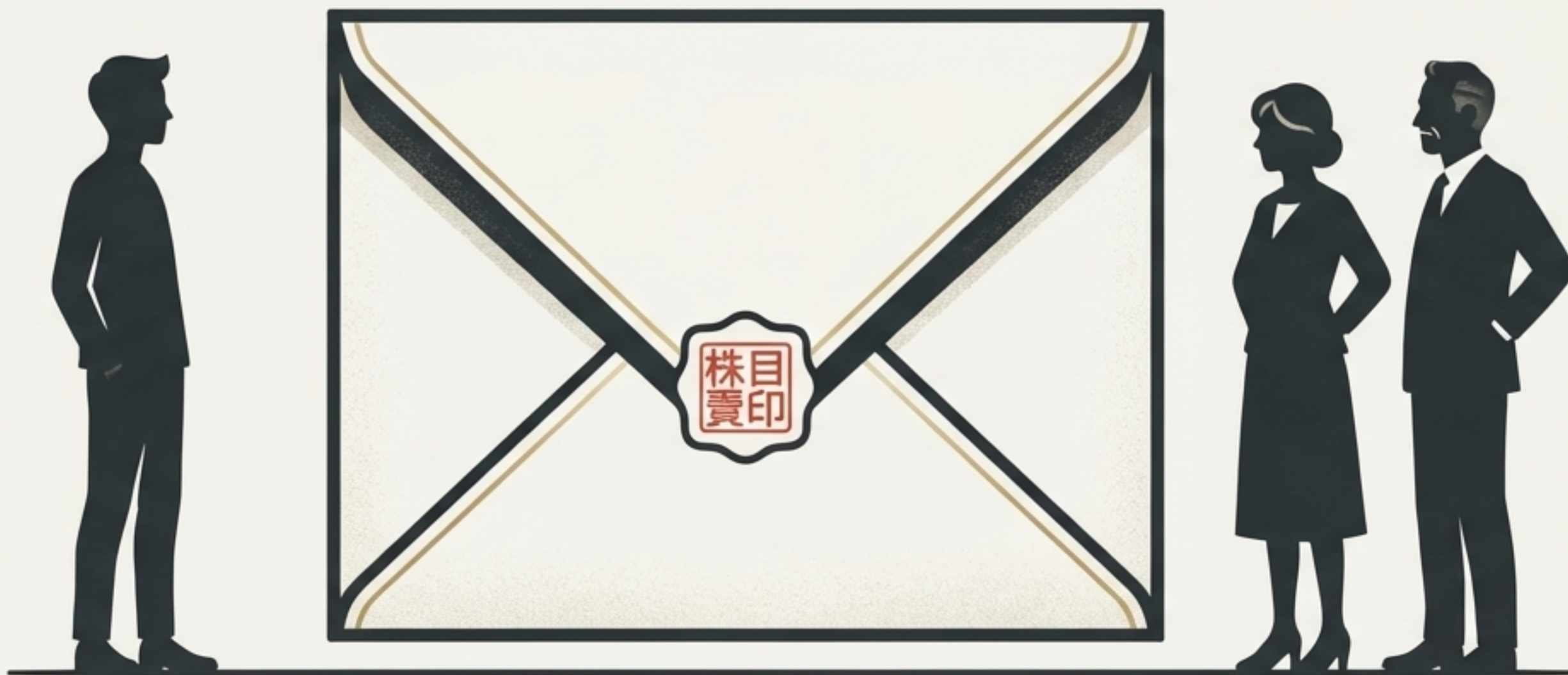


しかし、思わぬところで最初の関門が訪れた。「親バレ」である。

証券会社からの重要書類は、本人が直接受け取る必要があった。

不在時に親が代わりに受け取ってしまい、そこで発覚。

当然、猛反対された。投資を勧める親はいない。心配するからだ。



親の心配を前に、 私は一つの嘘をついた。

親の心は無駄にするように
「無料だから」と何となくやり過ご
したらことした。
しかし、その裏で覚悟は決まってい
た。

「実際は100万単位で入金して
取引をしていましたが。」



無料だから

先入観を知識で乗り越え、親の反対を覚悟で 振り切り、ついにスタートラインに立った。

恐怖、無知、そして家族の心配。

いくつもの壁を乗り越え、投資家としての第一歩を踏み出す準備が整った。



仕手株投資家としての成長記録

第2回「投資を始めてから」へ続く。